高鍋町の文化財　第九集

高鍋の野仏

民間信仰を深めた
今も残る地蔵の調査報告

高鍋町教育委員会

目次

一、はじめに・表紙説明

二、高鍋の野仏分布一覧・分布図

三、高鍋の野仏調査

A　持田地区……1

鳴野・正祐寺・真米・勝利・家床

桧谷・東光寺・坂本・兀の下・切原

B　上江地区……15

竹鳩・老瀬・青木・羽根田・川田

馬場原・東平原・西平原・黒谷

牛牧・中尾・小並・高平・市の山

C　南高鍋地区……26

下永谷・堀之内・上永谷・熊野社

神祭野・水谷原・毛作・新山・太平寺

脇・大工小路・光音寺・筏・欄干

八坂社・城内

D　北高鍋地区……37

畑田・宮越・河原東・信金通・道具西

上古町・巡礼堂・熊野社・円智寺

中間小路・菖蒲池・萩原・中鶴

毛比呂計・樋渡

E　蚊口地区……46

港町・鵜戸西・半田・下町

天神・蚊口下・浜墓地・鵜戸社

四、編集後記……52

五、調査執筆者及び参画者……52

一、はじめに

高鍋町教育委員会は「高鍋町文化財要覧」（第一集）の続刊として第九集「高鍋の野仏」を発行することにしました。

今回のシリーズは、町内の有形文化財・彫刻類の野仏について町内各地に点在しているものを現地調査し、解説編集したものです。

第六集として「高鍋の社寺と教会」が発刊され、高鍋町におけるそれらの建造物の数の多さと由緒ある歴史等から高鍋町の古くからの繁栄とそれらを支えた精神性の高さや有り様が紹介されました。

今回取り上げる野仏は、主に古より里村の集落を形成してきた人々の日常生活の営みの中から、民間信仰の対象として建立され、人々の身近に安置されているものです。代々語り継がれて来た由来に基づいて家人や地域の人々が協力して、独自の様式でお祀りをし存続が計られてきております。

野仏の中には、高鍋城二の丸跡に祀られている寒山拾得像（二体）のように由緒ある貴重なものや、昭和になって古墳慰霊の為に建立され始めたとされる高鍋大師像群落のような新しいものまで多様な形で存在しますが、多くは町内の周辺地区の道路の辻々や墓の入り口などにひっそりと安置されており、高鍋町の成り立ちや地区の行事を知る手掛りにもなっております。

このたびの編集に当たりましては、文化財保存委員会五名の皆様に地区別に分担して調査を実施して頂きましたが、数の多さに加えて野仏が民間の方の手により管理されている状況、時代の推移に伴う風化や伝承の難しさの問題等もありご苦労されたことと思います。完成へのご熱意とご尽力に対して厚く御礼申し上げます。

近年は、近代化、合理性を求めて、伝統行事等が簡略化される傾向にありますが、この第九集の発行を機に多くの方々に町内に残されている文化財への理解を深めて頂き、保存顕彰へのご支援を賜れば幸いに存じます。

高鍋町教育委員会
教育長　三重野　保

◎表紙説明

・所在地　高鍋町大字南高鍋字神祭野（こぜの）

財部（たからべ）土持氏が都於郡伊東氏により攻め滅ぼされたときに宝物を埋めた場所に目印として建立されたと言われている。

［河原ユキエ氏談］

康正二年（一四五六）十一月、伊東祐堯（いとうすけたか）（都於郡（とのこおり）城主）の兵が財部攻略のため進攻してきた。

同年十一月二十二日両軍は城の南、毛作原（けづくりばる）（南高鍋毛作）で激突した、この合戦は土持方に多くの戦死者が有り伊東方の勝利となった。

土持氏は新名爪（宮崎市新名爪）に六十町を領することになり財部城は伊東方に渡した。この後、土持氏は財部を回復することはなかった。この戦いで土持氏が財部を出るときに、宝を埋めた目印に建立したのか。

二、高鍋町野仏分布一覧

番号	A 持田 名称	固体数
1	鴫野 深川地蔵	1
2	〃 お屋敷地蔵	1
3	〃 火伏 地蔵	1
4	〃 中の筋地蔵	1
5	〃 大明神地蔵	1
6	〃 薬師如来	2
7	正祐寺 地蔵	1
8	〃 大師	5
9	〃 弥勒菩薩	3
10	〃 弓削地蔵	1
11	真米 大師	1
12	勝利 弥勒菩薩	3
13	家床 青面金剛	2
14	〃 坂 大師	5
15	桧谷 岩岡大師	2
16	東光寺 地蔵	2
17	〃 高鍋大師	375
18	坂本 大師	1
19	〃 毘沙門天	3
20	〃 杉田大師	1
21	兀の下 地蔵	3
22	切原 愛宕地蔵	1
23	〃 山田薬師	2
24	〃 下山地蔵	1
25	〃 柳丸岩岡大師	1
26	〃 薬師如来	3
計		423

番号	B 上江 名称	固体数
1	竹鳩 大師	2
2	老瀬 観音	2
3	〃 地蔵	1
4	上青木 六地蔵	1
5	〃 大師	2
6	〃 観音	1
7	下青木 六地蔵	1
8	羽根田 六地蔵	2
9	川田 地蔵	1
10	川田寺木蔵1～3	3
11	〃 役の行者	3
12	〃 森地蔵	1
13	馬場原 大師	3
14	東平原 地蔵	3
15	西平原 地蔵	1
16	西迎院 地蔵	1
17	黒谷 観音	1
18	牛牧 大師	1
19	中尾 大師	1
20	小並 大師	2
21	市の山 地蔵	1
22	高平 大師	1
23	市の山 神保大師	1
計		36

番号	C 南高鍋 名称	固体数
1	下永谷 弘法大師	3
2	堀の内 地蔵	2
3	上永谷 大師	3
4	〃 薬師地蔵	1
5	熊野社 不動明	3
6	雲雀山 観音	1
7	神祭野 地蔵	2
8	〃 坂 地蔵	1
9	水谷原 地蔵	2
10	毛作 地蔵	1
11	新山 大師	2
12	〃 鬼子母神	1
13	太平寺 弘法大師	1
14	脇 地蔵	1
15	大工小路 地蔵	2
16	光音寺 地蔵	2
17	〃 和助地蔵	1
18	筏 地蔵	1
19	欄干 八十八ヶ所霊場	155
20	八坂社 六地蔵	1
21	城内 寒山拾得像	2
計		188

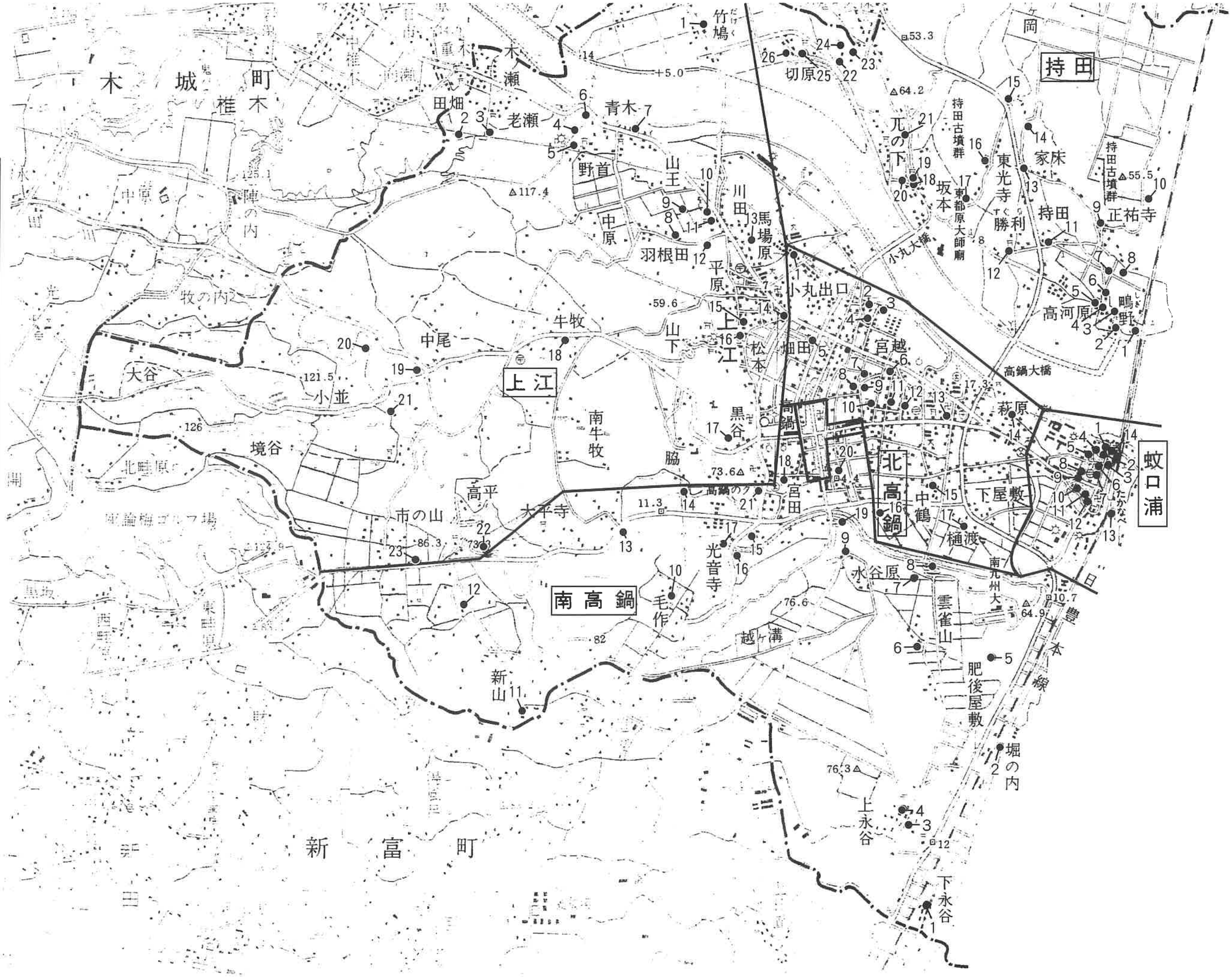
番号	D 北高鍋 名称	固体数
1	畑田 地蔵	5
2	宮越 弘法大師	2
3	河原東 弘法大師	1
4	河原 弘法大師	1
5	信金通 宮越不動	1
6	道具西角 岩岡地蔵	3
7	上古町 弘法大師	3
8	田の上巡礼堂 地蔵	2
9	〃 東 大師	1
10	熊野社 地蔵・岩岡地蔵	3
11	円智寺 地蔵	7
12	中間小路 大師	1
13	菖蒲池 観音	4
14	萩原 地蔵	3
15	中鶴 火伏地蔵	2
16	毛比呂毛 弘法大師	1
17	樋渡 弘法大師	1
計		41

番号	E 蚊口 名称	固体数
1	港町入口 地蔵	1
2	鵜戸西 地蔵	2
3	蚊口 弘法大師	2
4	上半田 地蔵	2
5	鯨橋東 地蔵	1
6	下半田 地蔵	1
7	下町 地蔵	2
8	鵜戸橋西 地蔵	1
9	鯨橋西 地蔵	3
10	天神 大師	3
11	天神町 地蔵・大師	2
12	蚊口下 地蔵	1
13	浜墓地入口地 六地蔵	2
14	鵜戸社入口 地蔵	2
計		25

高鍋町集計

地区	箇所数	固体数
A 持田	26	423
B 上江	23	36
C 南高鍋	21	188
D 北高鍋	17	41
E 蚊口	14	25
計	101	713

高鍋町野仏分布図


木城町
椎木
瀬
田畑
老瀬
青木
野首
中原
山王
川田
馬場原
羽根田
平原
竹鳩
切原
兀の下
坂本
東都原大師廟
持田古墳群
東光寺
家床
勝利
持田
正祐寺
小丸大橋
小丸出口
高河原
鳴野
高鍋大橋
牛牧
中尾
上江
山下
松本
畑田
宮越
大谷
小並
南牛牧
黒谷
高鍋
萩原
境谷
北畦原
脇
宮田
北高鍋
中鶴
下屋敷
蚊口浦
高平
市の山
大平寺
樋渡
光音寺
水谷原
南九州大
南高鍋
毛作
雲雀山
越ヶ溝
新山
肥後屋敷
堀の内
上永谷
下永谷
新富町

名　称　深川地蔵（A-1）

所在地　高鍋町大字持田深川

建立者　柄本家祖先

管理者　鴫野深川五、六班の皆さん

素　材　石材

建立年月日　文化八年（一八一一）辛未正月二十四日

碑　文　台石正面

文化八辛未

三界萬霊

正月廿四日

法　量　地蔵　台座

高さ　六〇cm　二六cm

幅　三四cm　三九cm

奥行き　二六cm　二六cm

由来等　当時船乗りだった柄本順一郎氏の祖先が四国より船で運びこの地に祀った。祭礼は毎年旧正月二十四日柄本順一郎氏宅庭で付近の人達で。

名　称　お屋敷地蔵（A-2）

所在地　高鍋町大字持田字鴫野六一九五

建立者　不明

管理者　岩下弘源氏

素　材　木材

建立年月日　不明

碑　文　台石底面に墨書き

当院主　清浄院

遷立大願主平河一宅献

同隠岐守　同久谷衛門

同勘介　〇〇〇〇

他に小木像四体在り。

法　量　木像　台座

高さ　六〇cm　二五cm

幅　三〇cm　三〇cm

奥行き　三〇cm　三〇cm

由来等　昔この付近は、お屋敷と言われた所で、この像は何時から祀られたか分からないが、以前は雲水姿の僧が毎年訪れて供養をしてくれた大切な像だから丁寧に祀るようにと言っていた。特に上半身の障りに霊験あると、参拝される人もある。

（岩下弘源氏談）

名　称　火伏地蔵（A-3）

所在地　高鍋町大字持田字鴫野中の筋

建立者　鴫野五ヶ村中

管理者　鴫野公民館中の筋の皆さん

素　材　石材

建立年月日　大正六年（一九一七）正月二十四日

碑　文　台石正面

鉄城山全長寺

大正六年正月二十四日

鴫野五ヶ村中

背　面

三十四才時刻之

石工　田中政次郎

法　量　地蔵　台座

高さ　六〇cm　三三cm

幅　四二cm　五五cm

奥行き　四四cm　四六cm

由来等　鴫野地区は火災が多く、地区民相計り火伏せで有名な宇納間地蔵尊の霊を戴き、火難消滅を祈願して建立した。

鴫野五ヶ村とは、正祐寺・大寺・深川・中の筋・川の上をいう。

名　称　中の筋地蔵（A-4）

所在地　高鍋町大字持田字鴫野中の筋

建立者　不明

管理者　鴫野中の筋の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　台石底面

文化

三界萬霊

法　量　石像　台座

高さ　四〇cm　三三cm

幅　二五cm　二〇cm

奥行き　二五cm　二四cm

由来等　いつからか、この地蔵さんを祀るようになって、この地区でのいろんな事故が無くなったと言われ、それで現在もお祭りが続いている。

祭日、毎年一月二十三日

名　称　大明神地蔵（A－5）

所在地　高鍋町大字持田大明神

建立者　不明

管理者　鴫野有志の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　石像　台石（コンクリート）

高さ　三六cm　一七cm

幅　三〇cm　四八cm

奥行き　二〇cm　四八cm

由来等　以前は、高鍋大師祭りの際、供物を供えていく人がいたが、今では誰もまつる人がいないので、公民館清掃のときに付近の人々が手入れをしている。

（木下さん談）

名　称　鴫野薬師如来（A－6）

所在地　高鍋町大字持田字鴫野

建立者　不明

管理者　黒水國臣氏

素　材　木材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　（左）木像　台（動物像）

高さ　六七cm　一五cm

幅　二二cm　三五cm

奥行き　一五cm　二〇cm

（右）木像　台座（同）

高さ　三六cm　九cm

幅　一六cm　二〇cm

奥行き　八cm　二〇cm

由来等　由来などは今となっては解らないが、毎年一回正月中に黒水家で祭っている。

名　称　正祐寺地蔵（A-7）

所在地　高鍋町大字持田字正祐寺

建立者　黒木勘兵衛氏

管理者　矢野ケイほか正祐寺一班の皆さん

素　材　石　材

建立年月日　宝暦三年（一七五三）壬午七月吉日
（頭部は戦後に作った）

碑　文　正　面
毎月晨朝入　諸定
入諸地獄会　離垢
無佛世界度　衆正
左　面
宝暦三年七月吉日
願主
黒木勘兵衛

法　量　石像　台座
高さ　六八cm　七cm
幅　三六cm　三七cm
奥行き　三六cm　三六cm

由　来　等　以前は道路南側に在ったが、道路拡張のため現在地に安置した。
由来は解らないが、毎年正月二十一日、正祐寺一班の皆さんで神職を呼んでお祭りをする。

名　称　正祐寺大師（A-8）

所在地　高鍋町大字持田字正祐寺

建立者　河野氏

管理者　不　明

素　材　石　材

建立年月日　昭和四〇年三月

形　状　木造大師堂を中心に石像が五体おかれ堂内に数体の小木像が置かれているが現在は祠る人も無く竹藪の中に放置されている。

碑　文　昭和四〇年三月　大宮大師堂　矢野久吉
山林一畝寄贈　などの碑文がある

法　量　石像①　台座
高さ　五六cm　八七cm
幅　五三cm　六一cm
奥行き　二五cm　二一cm

由　来　等　河野氏により作られたが同氏が亡くなられてそのままになっている。
同所には横穴古墳が数基あったが台風のとき崖崩れにより一部が損壊して失われた。
五体のうち四体は山林中に、堂内にある小像も破損し散乱している。

名　称　正祐寺弥勒菩薩・弘法大師（A－9）

所在地　高鍋町大字持田字正祐寺　農振センター

建立者　不明

管理者　正祐寺公民館

素　材　木材

建立年月日　不明

碑　文　なし

形　状　別に堂屋があってその堂内の厨子に安置
木像　彩色　座像　別に堂内に弘法大師像あり

法　量　（左）木像　蓮華座
高さ　四〇cm　一〇cm
幅　二七cm　三〇cm
奥行き　三〇cm　三〇cm
（右）弘法大師像（石材）（昭和三九年八月作）
高さ　二五cm
幅　二〇cm
奥行き　一四cm

由来等　耳の神様として霊験あらたかで、昔は穴のあいた石を供えて祈願した。今その石は堂の下の礎石の中に入れてある。

名　称　子供供養地蔵菩薩（A－9）

所在地　高鍋町大字持田字正祐寺　農振センター

建立者　岩岡師作

管理者　正祐寺公民館の皆さん

素　材　石材

建立年月日　昭和四六年（一九七一）七月七日

碑　文　表面
裏面
昭和四六年七月七日　岩岡八三才作

法　量　石像　セメント製石柱
高さ　九〇cm　八五cm
幅　三五cm　二三cm
奥行き　三〇cm　九cm

由来等　地蔵の前の石には昔話がある。たかなべ昔話第二集「ふしぎな石」参照。
コンクリート製の石柱に子供祈願地蔵菩薩。

名　称　弓削地蔵（ゆげじぞう）（A－10）

所在地　高鍋町大字持田字正祐寺（しょうゆうじ）

建立者　弓削氏

管理者　弓削氏

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　台座正面

爰尓日州高鍋領持田掛　大仙寺の上より矢櫃ケ谷まで竪凡壹里余横三丁余　昔より冗原にして竹木なし　諺に曰く山高故不貴以有樹為貴と仍而某父子ゐんし　宝暦戊寅年松壱万七千本を植て聊　君恩に備へ奉祀して

西　面

□□□に生きるもの数を志らず　□にせ六年を経て今年　郡用としてえ木四万三千本を伐採すいへども松なを繁く栄へて密雲のごとし

□□□　ゆえんを記して後世に示すなを　君が代とともに千とせの栄を希ふのみ

東　面

于時

天明（一七八三）第三癸卯冬霜月

弓　削　林　蔵

同　姓　蔵之助

謹　言

法　量　石　像

高さ　六〇cm

幅　四三cm

奥行き　四三cm

台　座

高さ　四五cm

幅　四三cm

奥行き　四三cm

名　称　真米大師（まごめだいし）（A－11）

所在地　高鍋町大字持田字真米

建立者　不明

管理者　真米有志

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

形　状　木造上屋あり

法　量　石像

高さ　二六cm

幅　一八cm

奥行き　四三cm

台座

高さ　四五cm

幅　四三cm

奥行き　四三cm

由来等　いつ頃から祀られたか不明だが毎年地区の大師講の人で祭礼が行われる。

名　称　勝利阿弥陀如来（すぐりあみだにょらい）（A-12）

所在地　高鍋町大字持田勝利　公民館内
建立者　不明
管理者　勝利公民館の皆さん
素　材　木材
建立年月日　不明
碑　文　なし
法　量　（中）阿弥陀仏木像　台座
高さ　六三cm　二七cm
幅　一九cm　三六cm
奥行き　一三cm　三六cm
（左）観音菩薩　台座
高さ　三九cm　九cm
幅　一一cm　一六cm
奥行き　一一cm　一六cm
（右）勢至菩薩　台座
高さ　四〇cm　九cm
幅　一一cm　一六cm
奥行き　一一cm　一六cm

由来等　この仏像は、延宝年間（一六七三～一六八〇）の頃からあるといわれ、地域の信仰の対象とされてきた。

明治の廃仏毀釈によって「阿弥陀寺」はこわされたものの村民は仏像を裏山に隠し礼拝を続けたという。

明治五年村民の論議により仏像を勝利天神に祀ることとなり許されて以後神仏同堂となり今日に至っている。仏は左に観音菩薩、中央に阿弥陀如来、右に勢至菩薩が安置されている。

天神祭のとき、神主を招いて年一回神仏一緒に祀っている。

名　称　家床青面金剛像（いえとこしょうめんこんごうぞう）（A-13）

所在地　高鍋町大字持田字家床
建立者　不明
管理者　家床有志
素　材　石材
建立年月日　不明
形　状　交差点の道路脇　木造堂内に
碑　文　□□癸丑年　施主　村中
法　量　舟形石に青面金剛像　下段に三猿の浮き彫り
高さ　四五cm
幅　二五cm
奥行き　四三cm
同じ屋内に岩岡師作大師像
石像
高さ　八〇cm
幅　三八cm
奥行き　三〇cm

由来等　破損か甚だしく年代不明だが、民間信仰としての庚申信仰を物語るもので、民間信仰の貴重な資料である。

名　称　家床坂大師（いえとこざかたいし）（A-14）

所在地　高鍋町大字持田　家床

建立者　森家（勝利）

管理者　森家所縁の人々

素　材　石　材

建立年月日　昭和十年（一九三五）十二月

形　状　露座　一石彫り　五体

道路脇の山腹を削って安置されている

碑　文　中央の像

家内安全

昭和拾年拾二月

法　量　石像①　高さ　七三cm　幅　四〇cm　奥行き　一八cm

石像②　七三cm　四〇cm　一八cm

石像③　七〇cm　三五cm　一八cm

石像④　八〇cm　五七cm　二〇cm

石像⑤　四五cm　四〇cm　二五cm

由来等　熱心なお大師さんの信者だった森さんの家人が重い病気に罹ったので、その病気平癒を祈って大師像を安置し祈願された。

いまも一族の方々が毎年旧暦三月二十一日にお祭りをされている。

名　称　桧谷大師（ひのきだにだいし）（A-15）

所在地　高鍋町大字持田　家床　桧谷

建立者　北九州市　佐藤氏

管理者　小山氏

素　材　石　材

建立年月日　不　明

形　状　「土橋神社」額束の鳥居のある木造堂内に石造二体

碑　文　銘　北九州市門司区　佐藤　一七才

法　量　左より　石像①　高さ　六五cm　幅　二〇cm　奥行き　一〇cm

石像②　七〇cm　四〇cm　二五cm

由来等　鳥井の奉納者と碑文より佐藤氏が一家の健康安全と繁栄を祈願して、大師を建立。

清掃管理は近くの小山さんがされている。

名　称　東光寺地蔵（とうこうじじぞう）（A-16）

所在地　高鍋町大字持田字東光寺
建立者　不　明
管理者　東光寺の皆さん
素　材　石　材
建立年月日　①体　宝暦三年（一七五三）十月吉日
　　②体　不　明
碑　文　①正面
　毎月晨朝入諸
　入諸地獄会離
　無仏世界度衆
　今世後世能引
　右　面
　于時
　宝暦三□□天
　十月　村中
　②　なし
法　量　①石像（右）
　高さ　六八cm
　幅　三六cm
　奥行き　三〇cm
　②石像（左）
　高さ　四〇cm
　幅　二六cm
　奥行き　一五cm

定垢正導

左　面
東光寺住□
密　傳
施主　衆中

台座（コンクリート基盤の上）
三九cm
三〇cm
三〇cm

台　座
一三cm
三一cm
二九cm

由　来　等　当地は東光寺跡で町指定文化財の十三佛板碑があり、一石一字の経塚もあって、佛教遺跡としても興味ある寺跡である。

名　称　高鍋大師（たかなべだいし）（A-17）

所在地　高鍋町大字持田　東光寺
建立者　岩岡師
管理者　お大師講の皆さん
素　材　石（三七五体）
建立年月日　昭和八年～
形　状　大小多数の素朴な仏像が立ち並ぶ
法　量　大型岩岡大師（九体）
　①四体　②二体　③三体
　高さ　六米〇四cm　五米五〇cm　五米一〇cm
　幅　一米二〇cm　一米四〇cm　一米四〇cm
　奥行き　五五cm　七〇cm　六〇cm
　中型岩岡大師（十六体）
　①一体　②一体　③一体
　高さ　二．七五m　二．六〇m　二．三〇m
　④二体　⑤二体　⑥四体
　高さ　二．二〇m　一．九五m　一．八〇m
　⑦一体　⑧三体
　高さ　一．六三m　一．五〇m
　※中型像はほとんど差なく、幅五〇cm前後、奥行四〇cm前後を示す。

由　来　等　昭和四年持田古墳盗掘がありその霊を慰めることを念じて昭和八年自費を投じて東光寺に新八十八ヶ所を設立し、小丸の大師堂を移して安置、以来四十余年、自らも石仏を刻み続けられた。以後外部からの持込みも含め次のとおりの仏像が並ぶ。
　八十八ヶ所像　八十八体
　岩岡師作像　一七二体
　外からの持込像　一五体
　計　三七五体

名　称　旧市の山弘法大師（A-17）

所在地　高鍋町大字持田字　東光寺　高鍋大師内

建立者　市の山地区

管理者　高鍋大師

素　材　石　像　一体

建立年月日　不　明

形　状　木造小堂内に安置

碑　文　なし

法　量　石　像①

高さ　七〇cm

幅　四〇cm

奥行き　二〇cm

由来等　市ノ山松尾宅上にあったものを移転した。（平成十五年）

名　称　坂本大師（A-18）

所在地　高鍋町大字持田字坂本寺

建立者　不　明

管理者　坂本の有志

素　材　木　材

建立年月日　不　明

碑　文　木像底面

文政坤巳四年（一八二一）十月□□

京都□佛□

□□□之助

法　量　木　像

高さ　一〇cm

幅　一二cm

奥行き　五cm

由来等　安置されているお堂は牛乳収集場設立により現在地に移転した。木造の小像だが木目の素晴らしさは一見の価値がある。合木

名　称　坂本毘沙門天（A-19）

所在地　高鍋町大字持田字坂本

建立者　不明

管理者　祀堂　森　喜一郎氏
　　坂本の有志

素　材　木材

建立年月日　不明
　　祀堂　昭和三十年（一九五五）
　　昭和五十年（一九七五）改築

碑　文　木像背面
　　奉造立　于時慶□□□□□佛師
　　願主　長寿院　牧作左衛門
　　□□□之助

法　量　木像①　木像②　木像③
　　高さ　六六cm　四三cm　三〇cm
　　幅　三五cm　一五cm　一〇cm
　　奥行き　二四cm　一〇cm　五cm

由来等　お堂は坂本農振センターの敷地内にある。この像は森家にあったといわれ（長友さん談）彩色の木造で、一部欠損が在るが邪鬼をふまえ素晴らしい彫刻である。長寿院は貞亨寺社帳によると
本尊　薬師如来　寛永六年（一六二九）中興開山　法印　伝宗　前住　文性後三十年今無住　とある。
津江さんの話によると北東の谷に毘沙門天の池という泉水が在ったが今は無い。と、この像に由来するのか？

名　称　杉田大師（A-20）

所在地　高鍋町大字持田字坂本

建立者　不明
　　祀堂　杉田氏

管理者　杉田氏

素　材　石材

建立年月日　不明（昭和初頃と思われる）

碑　文　なし

法　量　石像①
　　高さ　三〇cm
　　幅　二七cm
　　奥行き　一二cm

由来等　不明

名　称　兀の下地蔵（A-21）

所在地　高鍋町大字持田字兀の下

建立者　不明

管理者　兀の下有志

素　材　石材

建立年月日　不明

祀堂　あり

碑　文　なし

法　量　大石像①　左石像②　右石像③

高さ　七〇cm　三五cm　二八cm

幅　二一cm　一八cm　一八cm

奥行き　八cm　七cm　八cm

台　石

高さ　一七cm

幅　二七cm

奥行き　二七cm

由来等　②　③は舟形石に浮き彫り

昔兀の下の墓地は現在の小丸川と切原川の合流点にあった。しかし度重なる水害で坂本坂の上に移転したが、墓守としての地蔵さんは残ったのだという。

（川田さん談）

名　称　切原愛宕地蔵（A-22）

所在地　高鍋町大字持田字切原

建立者　矢野氏祖

管理者　主として老人クラブで管理

素　材　石材

建立年月日　不明

祀堂　あり

碑　文　なし

法　量　石像①　台石

高さ　九五cm　一五cm

幅　二七cm　三〇cm

奥行き　二七cm　三〇cm

由来等　祭礼　毎年正月と旧暦九月二十四日、黒谷愛宕神社に参拝する。

名　称　山田薬師（A－23）

所在地　高鍋町大字持田字切原

建立者　不明

管理者　主として老人クラブで管理

素　材　木材

建立年月日　不明

祀堂　あり

碑　文　なし

法　量　大石像①彩色　木像②焼損

高さ　七五cm　七五cm

幅　二一cm　二〇cm

奥行き　一六cm　一二cm

由来等　いつの時代からどんな由来で建立されたのかは不明である。しかし、火災にあって焼損している像をみると、ずい分古い仏像と思われる。切原地区で毎年旧正月八日に祭礼を行っている。

名　称　下山地蔵（A－24）

所在地　高鍋町大字持田字切原

建立者　不明

管理者　主として渡部氏

素　材　石材

建立年月日　文政二年（一八一九）

露　座

碑　文　不明

法　量　石像①　台石

高さ　六一cm　三三cm

幅　三六cm　三六cm

奥行き　三六cm　三六cm

由来等　昭和の初頃までは鬼ヶ久保から切原には下山の道といって平田神社御神幸もこの道を通ったという、いまその道はないけれどこの地蔵さんはその三叉路にありその後ろに泉があり道行く人を見守っていたと思われる。

名　称　柳丸大師（A－25）

所在地　高鍋町大字持田　切原　柳丸　切原神社境内

建立者　切原地区

管理者　切原有志

素　材　石　材

建立年月日　背面に　昭和三十年（一九五五）十一月午吉日

形　状　切原神社境内西隅の池の端に在る、立像

碑　文　正面右　いねこめのかみ　右側面　二月はつ午

正面左　正一ひうがのみ玉　左側面　十月はつ午

背　面　せかひ日本ほおネン　ほキ　岩切家一と

法　量　石像①

高さ　九五cm

幅　五〇cm

奥行き　二二cm

由来等　昭和三十年、地区民により岩岡氏に依頼し、地区の繁栄と豊作を祈って大師を建立したもので、神社の祭礼の折、一緒に祀っている。

名　称　切原薬師（A－26）

所在地　高鍋町大字持田字切原

建立者　不　明

管理者　切原下組の皆さん

素　材　木　材

建立年月日　不　明

碑　文　堂屋内　三体在り

②のみ

日向　内田隆道

昭和七年（一九三二）八月

法　量　木像①（中）　木像②（左）　木像③（右）

高さ　四三cm　三七cm　一四cm

幅　二八cm　一八cm　一三cm

奥行き　一八cm　一五cm　一〇cm

台　石

高さ　二八cm　一六cm　八cm

幅　二七cm　二三cm　一一cm

奥行き　二八cm　一二cm　一〇cm

由来等　今はとくに祭礼として地区全体で祀る事はないが、下組五戸で正月八日にお祭りをしている。

名　称　竹鳩大師（だけくだいし）（B－1）

所在地　高鍋町大字上江字竹鳩
建立者　竹鳩講中
管理者　竹鳩大師講中
　　池北商店
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　堂屋内　二体在り
　　二体とも台石に左より奉納の二文字
法　量　石像①舟形石に浮き彫り　石像②
　　高さ　五二cm　四三cm
　　幅　二五cm　三二cm
　　奥行き　一二cm　二四cm
　　台石
　　高さ　二〇cm　二五cm
　　幅　三三cm　三九cm
　　奥行き　三三cm　三九cm
由来等　今はとくに祭礼として地区全体で祀る事はないが、付近五戸で旧三月二十日にお祭りをしている。

名　称　老瀬観音（おいせかんのん）（B－2）

所在地　高鍋町大字上江　老瀬
建立者　不明
管理者　老瀬地区の皆さん
素　材　石材
建立年月日　不明
形　状　祀堂　二つの滝の合流点の崖の中腹の洞窟内
　　二体同座
　　①は舟形石に浮き彫り
　　②は鉄製
碑　文　石仏に「文政十年」（一八二七）の銘がある。
法　量　石像①　金属像②
　　高さ　五五cm　六五cm
　　幅　二四cm　一六cm
　　奥行き　一五cm　三cm
　　台座
　　高さ　一九cm
　　幅　三五cm
　　奥行き　三五cm
由来等　以前は地区総出で盛大にお祭りをし素麺流しなどのお接待をしていたが最近は素麺流しは中止している。木の瀬、老瀬地区の女性部が毎月交替で清掃奉仕をしている。安産の仏として参詣の人も多い。

名　称　老瀬墓地地蔵（B－3）

所在地　高鍋町大字上江　老瀬

建立者　不明

管理者　老瀬地区の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

形　状　老瀬横穴古墳入り口にあり東部欠損

碑　文　なし

法　量　石像

高さ　五〇cm

幅　二三cm

奥行き　一三cm

由来等　昔から墓参の折りに、この地蔵さんにお花を供えてから、自分の家の墓に参るのが慣習になっている。

名　称　上青木六地蔵（B－4）

所在地　高鍋町大字上江青木上青木墓地

建立者　不明

管理者　上青木公民館の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　六角石柱の各面に左回りに
宝珠地蔵
知恵地蔵
光明地蔵
無垢地蔵
清浄地蔵
錫杖地蔵

法　量　石像　台座　石柱

高さ　五二cm　厚み　一五cm　五六cm

幅　三九cm　四〇cm　四〇cm

奥行き　二五cm　二五cm

由来等　六道のどこにいても救いの手をさしのべる六道救済のための六地蔵がある。六つの分身として彫刻される六地蔵の石仏は、江戸時代には、様々な形のものがあり現在に至っている。ここの六地蔵もこの墓地に眠る人々の死後の安寧を祈って作られたものと思う。

名　称　上青木大師（かみあおきだいし）（B－5）

所在地　高鍋町大字上江上青木

建立者　不明

管理者　上青木地区の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　石像（右）

高さ　三七cm

幅　三一cm

奥行き　一八cm

石像（左）

三五cm

三二cm

二五cm

由来等　何時から在るのか不明だが随分昔より祀っていることから相当古いものと思われる。

上青木地区五箇班が毎年三月二十一日彼岸の中日に大師講を行ってお接待を続けている。

名　称　青木観音（あおきかんのん）（B－6）

所在地　高鍋町大字上江字青木

建立者　坂本高雄氏

管理者　坂本高雄氏

素　材　青銅製

建立年月日　平成九年（一九九七）三月十六日

木造堂内　一体

碑　文　なし

法　量　像

高さ　六二cm

幅　一八cm

台座

一二cm

一八cm

由来等　古いお堂が痛んだので坂本さんが立て替えられた。

名　称　下青木六地蔵（B－7）

所在地　高鍋町大字上江青木下青木墓地
建立者　下青木公民館
管理者　下青木公民館
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　六角石柱の各面に左回りに
光明地蔵
無垢地蔵
清浄地蔵
錫杖地蔵
宝珠地蔵
知恵地蔵

法　量　石像　台座
高さ　四八cm　厚み　二六cm
幅　一五cm　五三cm
奥行き　二五cm　四六cm
石柱　基礎
高さ　五四cm　高さ　二三cm
直径　三〇cm　幅　五二cm
奥行き　二五cm　奥行き　四二cm

由来等　六道救済のための六地蔵があると言われる。六つの分身として彫刻される六地蔵の石仏は、江戸時代には、様々な形の物があり現在に至っている。ここの六地蔵もこの墓地に眠る人々の死後の安寧を祈って作られたと思う。

名　称　羽根田地蔵・六地蔵（B－8）

所在地　高鍋町大字上江羽根田　羽根田墓地
建立者　不明
管理者　川崎氏
素　材　石材
建立年月日　不明
形　状　小井出家墓地の一隅に置かれている。いずれも風化が激しく地蔵は頭部がなく、ようやく半跏像と思える位。六地蔵幢は傘と六地蔵の刻まれた胴部のみである。

法　量　石像　六地蔵　胴　かさ
高さ　五八cm　高さ　二三cm　三三cm
幅　二五cm　直径　二六cm　四〇cm
奥行き　二〇cm

由来等　むかし森の寺と言われた所に川崎さんが移られたおりそこにあった石塔類をまとめて現地に安置されたと伝える。
石囲いの墓地には森の寺の和尚の卵塔や小井手家の墓石、川崎家の墓碑などが丁寧に祀られている。

名称　川田地蔵（B-9）

所在地　高鍋町大字上江字川田　楠

建立者　不明

管理者　山下ハル子氏

素材　木材

建立年月日　不明

碑文　木造堂内　一体　なし

法量　木像　高さ　三〇cm　幅　六cm　奥行き　五cm　台座　高さ　六cm　幅　六cm　奥行き　六cm

由来等　同所に水神様あり。

名称　川田寺木像（B-10）

所在地　高鍋町大字上江字川田　川田神社境内

建立者　不明

管理者　川田公民館長

素材　木材

建立年月日　不明

由来等　ここは、川田寺のあとで他に行者像など小像七体がある。祭礼は神社にあわせて行われる。

法量　石像①　高さ　一〇四cm　幅　三〇cm　奥行き　二一cm　台座　高さ　一〇cm　幅　四二cm　奥行き　四二cm

法量　木像②　高さ　六〇cm　幅　一九cm　奥行き　一六cm　台座　高さ　一〇cm　幅　一九cm　奥行き　一六cm

法量　木像③　高さ　三二cm　幅　二二cm　奥行き　一五cm　台座　高さ　一二cm　幅　二六cm　奥行き　二三cm　厨子　高さ　九〇cm　幅　八六cm

名　称　川田社役の行者（B－11）

所在地　高鍋町大字上江字川田

建立者　不明

管理者　歴史総合資料館

素　材　木材

建立年月日　文化八年（一八一一）十二月

碑　文　木札に

奉安置神変大菩薩悲願円満祈念導師

大先達法印源盛

文化八年十二月

大円

と刻銘がある

法　量　木像①（中）　②（左）　③（右）

高さ　三八cm　一二cm　一三cm

幅　一九cm　九cm　九cm

奥行き　一二cm　六cm　六cm

由　来　等　もと川田寺の本尊で現在町歴史総合資料館に寄託されている。

名　称　川田森地蔵（B－12）

所在地　高鍋町大字上江　川田

建立者　森懇氏

管理者　森家

素　材　石材

建立年月日　昭和四十八年（一九七三）

形　状　川田と羽根田の堺付近の田の畦に北向に置かれている。

碑　文　背面に

森　懇　七〇才

昭和四八年　九月二十四日

の銘在り。

法　量　石像

高さ　七五cm

幅　四三cm

奥行き　二五cm

由　来　等　森氏は家内安全と豊作を願って建立し、以後森家によって祀られている。

名　称　馬場原大師（ばばのはるだいし）（B-13）

所在地　高鍋町大字上江字馬場原　朝晩学校跡

建立者　不明

管理者　地区有志

素　材　石材

二体は石碑型に浮彫

建立年月日　不明

碑　文　木造堂内

天保十年（一八三九）三月二十一日七十四とあり

法　量　向かって左より

石像①
高さ　三五cm
幅　一七cm
奥行き　一〇cm

石像②
高さ　三七cm
幅　三六cm
奥行き　二三cm

石像③
高さ　三四cm
幅　一五cm
奥行き　一二cm

由　来　等

毎年三月二十一日祭礼で班長がおにぎりを作って接待をする。

堂の脇に庚申塔あり

名　称　東平原地蔵（ひがしひらばるじぞう）（B-14）

所在地　高鍋町大字上江字東平原

建立者　不明

管理者　東平原下小路地区有志

素　材　石材

石碑型に浮彫　二体、舟形石に浮彫　一体

コンクリートブロックの堂内

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　石像①
高さ　三二cm
幅　一五cm
奥行き　一三cm

石像②
三〇cm
一七cm
一二cm

石像③
四五cm
二三cm
一三cm

台座①
高さ　一一cm
幅　二八cm
奥行き　三四cm

台石②
高さ　一一cm
幅　二八cm
奥行き　三四cm

由　来　等

由来は不明堂の脇に道祖神あり

（高さ七〇cm）

名　称　西平原地蔵（B-15）

所在地　高鍋町大字上江字西平原

建立者　不明

管理者　児玉邦広氏

素　材　石材

建立年月日　不明

形　状　露天

碑　文　なし

法　量　石像①舟形石に浮彫

高さ　六〇cm

幅　四〇cm

奥行き　一四cm

由来等　不明

名　称　西迎院地蔵（B-16）

所在地　高鍋町大字上江字西平原　西迎院墓地入口

建立者　不明

管理者　墓地の皆さん

素　材　石材

建立年月日　不明

形　状　木造屋根付き

碑　文　台石に

宝暦五（一七五五）

法　量　石像　台座

高さ　九〇cm　一九cm

幅　五五cm　七二cm

奥行き　五五cm　五三cm

由来等　かつて龍雲寺にあったものといわれ、いぼとり地蔵ともいわれる。信仰があり、参詣が絶えない。

名　称　黒谷観音（くろだにかんのん）（B－17）

所在地　高鍋町大字上江字黒谷

建立者　不明

管理者　黒谷地区の皆さん

素　材　木材

建立年月日　不明

堂宇あり

碑　文　底面に

桃海

の銘あり

法　量　木像　台座

高さ　二〇cm　六cm

幅　一二cm　二〇cm

奥行き　一〇cm　一五cm

由来等　毎年十一月十四日最寄りの日曜日地区有志でお祭りする。

名　称　牛牧大師（うしまきだいし）（B－18）

所在地　高鍋町大字上江字牛牧

建立者　渡部トミ氏他五名

管理者　中山俊子氏ほか

素　材　石材

建立年月日　昭和三年（一九二八）三月

上屋あり

碑　文　台石に

発起人

渡部トミ

渡部キヨ

日高イトヨ

小松ツギヱ

中山マス

法　量　石像　台座

高さ　四〇cm　二〇cm

幅　三〇cm　三〇cm

奥行き　二〇cm　三五cm

由来等　毎年旧三月二十一日に有志でお祭りする。

名　称　中尾大師（なかおだいし）（B－19）

所在地　高鍋町大字上江字中尾
建立者　不明
管理者　中尾有志
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　上屋あり
台石に記されているが判読出来ない
法　量　石像　台座
高さ　三三cm　二五cm
幅　三三cm　三〇cm
奥行き　一五cm　三一cm

由来等

たかなべむかしばなしより

現在、中尾村でお祀りしているお大師さまは、昔佐々木老夫婦が祀っておられたのを、それを鈴木文吉さんがお祀りなさるようになりました。その後、両家の後をついで中尾の守り神として中尾の人々によっておまつりされています。このお大師さんは、昭和三十年前後までは若い青年がお大師さんをかかえこんで来て花嫁さんに抱かせたといわれています。

名　称　小並大師（こなみだいし）（B－20）

所在地　高鍋町大字上江字小並
建立者　不明
管理者　小並地区八戸の皆さん
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　露天　二体　石碑型に浮き彫り
向かって左体②に
天保十年（一八三九）三月二十一日
法　量　石像①　②
高さ　三一cm　三三cm
幅　一七cm　一五cm
奥行き　一三cm　一一cm
台石
高さ　五cm　八cm
幅　二三cm　二〇cm
奥行き　二〇cm　二二cm

由来等

祭礼として地区八軒で祭毎年四月二十一日、お彼岸の祭りに合わせ同所にある、お稲荷さん・水神さんと一緒に祭りをする。

名　称　市の山地蔵（B-21）
所在地　高鍋町大字上江字市の山墓地
建立者　不明
管理者　市の山地区の皆さん
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　なし
法　量　石像　高さ　六五cm　幅　五六cm　奥行き　三五cm
台座　五五cm　五六cm　五六cm
由来等　祭礼はしていないが、それぞれ墓参の折り供花する。

名　称　高平大師（B-22）
所在地　高鍋町大字上江字高平　谷上宅
建立者　谷上氏祖先
管理者　谷上氏
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　なし

法　量　石像　高さ　三五、五cm　幅　二五、五cm　奥行き　二一、〇cm
由来等　谷上氏の祖先が家の近くの道路に弘法大師を安置し、地区・家族の安全を願ったのに始まる。毎年高平地区の人々相寄り祀っている。

名　称　神保大師（B-23）
所在地　高鍋町大字上江市の山県道沿
建立者　神保タセ子氏
管理者　岩岡保吉氏
素　材　石材
建立年月日　昭和三十五年
碑　文　なし
法　量　石像　高さ　三〇cm　幅　二二cm　奥行き　一一cm
由来等　家族安全を願って旧市の山角地に安置。移転に伴い現在地に安置。毎年四月二十一日、家で祀っている。お接待はここ三年やっていない。

名称　下永谷弘法大師（C-1）

所在地　高鍋町大字南高鍋　下永谷公民館内
建立者　不明
管理者　下永谷公民館
素材　石材
建立年月日　不明
碑文　写真(右)の背面に
明治二十一年（一八八八）一月建
とある
法量　弘法大師像(中央)　台座
高さ　三〇cm　七cm
幅　二五cm　二九cm
奥行き　一七cm　二四cm
地蔵(左)舟形石に浮彫
高さ　四〇cm
幅　二一cm
奥行き
地蔵(右)台座とも
高さ　三八cm
幅　二一cm
奥行き　一三cm

由来等
弘法大師祭、旧三月二十一日にお祭り、女性部のお接待がある。地蔵祭りは、男衆が世話人となり万福寺（新富町）の住職が尊師として祭りを行う。同所にもう一体破損した石像がある。

名称　堀之内地蔵（C-2）

所在地　高鍋町大字南高鍋　堀之内
建立者　不明
管理者　不明
素材　石材
建立年月日　不明
碑文　なし
法量　地蔵(右)　地蔵(左)
高さ　五四cm　五四cm
幅　一九cm　一八cm
奥行き　一七cm

由来等　不明

名称　上永谷弘法大師（うわながたにこうぼうだいし）（C-3）

所在地　高鍋町大字南高鍋　上永谷公民館内

建立者　弘法大師像…上永谷仏教婦人会一同
他の二体は不明

管理者　上永谷公民館有志

素材　石材

建立年月日　弘法大師像…昭和四年（一九二九）三月吉日
他の二体は不明

碑文　弘法大師像台座正面に
昭和四年三月吉日、上永谷仏教婦人会一同
左側面に
世話人　黒木サダ　稗嶋ノソ　横山タツ
黒木ヤス

法量　弘法大師像
高さ　四六cm
幅　三二cm
奥行き　一八cm
台座　二一cm
幅　四二cm
奥行き　四一cm
地蔵（右）
高さ　五七cm
幅　二二cm
奥行き　一四cm
台座　蓮華
一四cm
二五cm
二五cm
地蔵　舟形石に浮彫
高さ　六九cm
幅　二九cm

由来等　正月十五日と七月二十四日に観音祭を万福寺の住職を導師に迎え行う。祭りの日に一番早く来た人に御利益があるといわれた。施餓鬼は十六日、観音祭は十八日に行う。結婚式のとき地蔵さんを膝に乗せられた人は一週間その地蔵さんを祀っていた。

名称　上永谷薬師地蔵（うわながたにやくしじぞう）（C-4）

所在地　高鍋町大字南高鍋　上永谷　谷口宅

建立者　立光ソデ氏ほか四名

管理者　谷口良孝氏

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　正面　奉納
左側面　立光ソデ　浜田ミツ　田中ヤス
立光タマ　許斐（このみ）ノブ

法量　地蔵
高さ　五六cm
幅　二三cm
奥行き　一九cm

由来等　イボなど体に出来たものを取るという。曾祖母は四国から来た人で、イボなど体に出来たものを祈祷により平癒するなどにより奉納されたもの。（谷口氏）

名　称　不動明王（ふどうみょうおう）他（C－5）

所在地　高鍋町大字南高鍋字高岡　熊野神社

建立者　不明

管理者　雲雀山（ひばりやま）氏子

素　材　石　材

建立年月日　文化五戊辰十月

碑　文　役の行者背面に

文化五戊辰十月

宮崎大越家　円立院作

法　量　役の行者　椅像　不動明王立像

高さ　八八cm　一〇八cm

幅　五二cm　四二cm

奥行き　二五cm

理現大師椅像

高さ　八五cm

幅　四三cm

奥行き　二五cm

由　来　等

熊野神社は高岡山にあり藩政時代ここで護摩祈祷が行われていたらしく通称「ごまさん」と呼ばれている。元水谷原で祀っていたが現在は雲雀山地区で祀っている。

名　称　雲雀山観音（ひばりやまかんのん）（C－6）

所在地　高鍋町大字南高鍋　雲雀山

建立者　不　明

管理者　雲雀山氏子

素　材　木　材

建立年月日　不　明

碑　文　コンクリートブロックの堂内に安置

三慧競廣

弘誓海深

悲智無碑

月照波心

正徳六丙申閏二月

妙心派下沙門

海棟智東拝錫

弁賛

十八日点服

法　量　石　像

高さ　二四cm

幅　二〇cm

奥行き　一五cm

由　来　等

かなり以前までは女性によって祭りがなされていた。

名　称　神祭野地蔵（こぜのじぞう）（C－7）

所在地　高鍋町大字南高鍋　神祭野（こぜの）三叉路

建立者　不明

管理者　河原氏

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　右　男像　蓮華座　台　座

高さ　四三cm　一九cm　一六cm

幅　二三cm　二五cm　三三cm

奥行き　一四cm　二八cm

左　女像　蓮華座

高さ　四八cm　一一cm

幅　一三cm　一九cm

奥行き　一〇cm

由来等　土持氏が滅ぼされたとき、宝物を埋めた目印として建立されたといわれがある。

（河原ユキヨさん(92)談）

毎年六月二十四日団子を供えて祀る。

名　称　神祭野坂地蔵（こぜのざかじぞう）（C－8）

所在地　高鍋町大字南高鍋　南九大坂登口

建立者　雲雀山（ひばりやま）老人クラブ

管理者　雲雀山老人クラブ

素　材　石材

建立年月日　昭和四三年（一九六八）一月吉日

碑　文　なし

法　量　地　蔵（岩岡像）　台　座

高さ　二九cm　二〇cm

幅　二八cm　二〇cm

奥行き　一〇cm　一四cm

由来等　昔からあったといわれるが、古くなり雲雀山老人クラブで岩岡氏に頼んで建立した。定まったお祀りはしていない。

名　称　水谷原地蔵（みずやばるじぞう）（C－9）

所在地　高鍋町大字南高鍋　水谷原公民館

建立者　不明

管理者　水谷原公民館

素　材　木材と石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　右　木造仏　台座

高さ　四七cm　一九cm

幅　一五cm　二四cm

奥行き　八cm　一五cm

左　石像

高さ　三九cm

幅　三〇cm

奥行き　二〇cm

由来等　木像は神社の拝殿に置かれている。

名　称　毛作地蔵（けつくりじぞう）（C－10）

所在地　高鍋町大字南高鍋　毛作公民館敷地内

建立者　不明

管理者　毛作公民館

素　材　石材

建立年月日　宝暦（一七五一～一七六三）

碑　文　礎石左側面に

施主　村中

中山氏□□

法　量　石蔵　蓮華座

高さ　五九cm　一六cm

幅　二二cm　三二cm

奥行き　一二cm　三二cm

基壇

高さ　三七cm

幅　三〇cm

奥行き　三〇cm

由来等　祭礼は公民館の四〇人ぐらいが集まり、毎年七月十四日・十一月十四日神社の祭礼と同時に行う

名　称　新山弘法大師（C－11）

所在地　高鍋町大字南高鍋　新山三叉路

建立者　不　明

管理者　大西純一郎氏

素　材　石　材

建立年月日　不　明

碑　文　基壇に

弘法大師

とあり

法　量　石像（左）

高さ　三〇cm

幅　二八cm

奥行き　一八cm

台　座

二一cm

六〇cm

四〇cm

石像（右）岩岡師作

高さ　二七cm

幅　一九cm

奥行き　一五cm

由　来　等

大西純一郎氏など六世帯の人が集まりお祭りをする。

旧三月二十一日には接待がある。

名　称　新山鬼子母神（C－12）

所在地　高鍋町大字南高鍋　新山公民館

建立者　桑島弁次郎・蓑毛氏

管理者　新山公民館有志

素　材　木　材

建立年月日　不　明

形　状　木像のお堂内に安置されている。顔の一部が欠落し両手も損傷しているが見事な彫刻である。

碑　文　なし

法　量　木　像

高さ　五〇cm

幅　一八cm

奥行き　一三cm

台　座

八cm

六角形一辺　一七cm

由　来　等

蓑崎にあったこの像を、桑島・蓑毛両名が現在地に移転安置した。

名称　太平寺弘法大師（C-13）

所在地　高鍋町大字南高鍋　太平寺

建立者　不明

管理者　野村家

素材　石材

建立年月日　不明

上屋あり

碑文　台石に

文久三（一八六三）亥三月二十一日

南無大師遍照金剛

寄進當村中

法量　石像　台座

高さ　四八cm　三二cm

幅　四八cm　六〇cm

奥行き　二二cm　三八cm

由来等　よだれ掛けに

平成十四年九月吉日

野村　守　七十七才

トミ子　七十六才

とあり。

名称　脇地蔵（C-14）

所在地　高鍋町大字南高鍋　明倫寮の南

建立者　浦氏（蓑崎）

管理者　浦家

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　台座に

延享午（一七四五）平姓

などの文字が見えるが判読できない。

法量　石像　台座

高さ　七六cm　二〇cm

幅　二七cm　四五cm

奥行き　三〇cm　四五cm

由来等　不明

名称　大工小路地蔵（C-15）

所在地　高鍋町大字南高鍋　大工小路
建立者　不明
管理者　大工小路有志
素材　木材　一体・石材　一体
建立年月日　不明
形状　木造の堂内に安置されている。
両手が損傷しているが見事な彫刻である。
同じ堂内に狗犬と思われる木彫り在り。
碑文　なし
法量　木像（手前）　台座
高さ　六〇cm　一五cm
幅　二〇cm
奥行き　一五cm　一七cm
石像（後方）
高さ　四〇cm
幅　三〇cm
奥行き　一五cm
由来等　石像は、富田瓦焼屋の角のところに祭ってあって、嫁入りにはあちこちされたとのこと。

名称　光音寺地蔵（C-16）

所在地　高鍋町大字南高鍋　光音寺
建立者　不明
管理者　光音寺有志
素材　木材　二体
建立年月日　不明
形状　木造の堂内に安置されている。
碑文　なし
法量　木像　台座
高さ　一七cm　六cm
幅　五cm　一六cm
奥行き　三cm　一五cm
木像
高さ　三〇cm
幅　二〇cm
奥行き　二〇cm
由来等　不明

名称　和助地蔵（わすけじぞう）（C-17）

所在地　高鍋町大字南高鍋　光音寺（こうおんじ）山林内

建立者　光音寺地区

管理者　奥村家

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　地蔵　台座

高さ　二九cm　一四cm

幅　二八cm　二〇cm

奥行き　一〇cm　二〇cm

由来等　光音寺地区の人々に親しまれていた巡査に因んで地蔵に和助地蔵と名をつけたという。この地蔵は「イボとり地蔵」とも呼ばれ昔はよくお参りがあったという。

現在は地区のお祀りはなく奥村家で管理している。

名称　筏地蔵（いかだじぞう）（C-18）

所在地　高鍋町大字南高鍋　筏　岐本家跡

建立者　不明

管理者　岐本途也氏

素材　石材

舟形石に浮彫り

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　石像　台座

高さ　八四cm　一七cm

幅　四〇cm　四〇cm

奥行き　一七cm

由来等　地蔵が置かれていたのは、筏橋の近くの武家屋敷であり祖先がどこからか持ってきて、庭にすえたといわれている。

名　称　八十八か所霊場（C－19①）

所在地　高鍋町大字南高鍋　円福寺内

建立者　円福寺三十世譽上人・三十三世忍譽学進代

管理者　円福寺

素　材　石　材　一五四体

建立年月日　明治三十一年

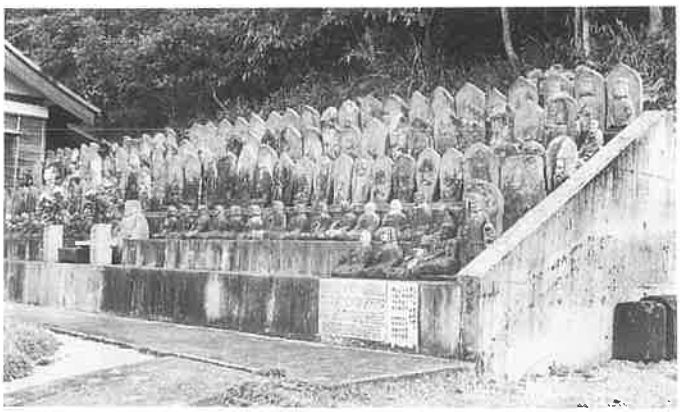
由来等　四国八十八ヶ所霊場建立記念

明治三十一年当時三十世念世譽上人檀信徒発願により三十三所八十八ヶ所の勧請をせんとせしも上人転住せられ完成を終えず、今回世話人一同の再企により八八所を完了安置。

大正十五年三月

当山第三十三世

忍譽学進代



名　称　円福寺地蔵（C－19②）

所在地　高鍋町大字南高鍋　円福寺内

建立者　円福寺

管理者　円福寺

素　材　石　材

建立年月日　不　明

碑　文　なし

法　量　地　蔵　台　座

高さ　七四cm　経　二六cm

幅　二三cm　方形　二九cm

奥行き　一八cm

由来等　不　明

名　称　六地蔵（ろくじぞう）（C－20）

所在地　高鍋町大字南高鍋　八坂神社境内
建立者　不明
管理者　八坂神社
素　材　石材
建立年月日　正徳三癸巳年（一七一三）
形　状　灯籠形六面幢六地蔵
碑　文　伏所希者現當安楽口
法　量　頭頂　笠　籠部
　高さ　一八cm　厚み　二四cm　高さ　三三cm
　径　四九cm　横　一五cm
　笠上　九cm角
　中台（六角）　躯柱（円柱）　台座（四角）
　幅　二〇cm　径　二八cm　辺　四七cm
　高さ　一二cm　高さ　九〇cm　高さ　七cm
由来等　六地蔵由緒（案内板より）
　この六地蔵尊は正徳三癸巳年（一七一三）卯月吉良辰に祇園寺の境内に建立され、明治二年の廃寺後境内にあり、その後児童公園建設にあたり高平に移され祀られていたが、今度八坂神社に再建された。碑文に伏所希者現當安楽口とあり、お参りすれば現世未来にわたり御利益があるといわれている。
　昭和六十三年戊辰年八月

名　称　寒山拾得像（かんざんじっとくぞう）（C－21）

所在地　高鍋町大字南高鍋　城内
建立者　不明
管理者　歴史総合資料館
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　左の石像の背面に
　天文十八年（一五四九）己酉孟夏下浣日
　富春山人一蘭老袖　安置
　大工　文甫
　の銘が在る　　冀
法　量　石像（右）　　左
　高さ　九三cm　　九六cm
　幅　四〇cm　　四〇cm
　奥行き　二〇cm　　二〇cm
由来等　もと串間に在ったものを秋月氏が江戸の藩邸に移し、明治になって片瀬の別邸に移し更に高鍋の城内に安置したといわれ現在二の丸跡に祀られている。かんかん様とよばれ参詣の人が絶えない。
　毎年五月十日、新小路の石井さん数戸で川南から僧侶を招いて祀りを行い、お接待も続けている。

名称　畑田地蔵（はたけだじぞう）（D-1）

所在地　高鍋町大字北高鍋　畑田　佐久間土手
建立者　桝田　泉氏
管理者　不明
素材　木材
建立年月日　昭和六〇年（一九八五）五月
碑文　なし
法量　木像　台座
高さ　五九cm　一〇cm
幅　三〇cm　二八cm
奥行き　一六cm　一三cm
他に同じ堂内に小石像四体を祭る。

由来等　畑田地区の数箇所に祀られていた地蔵さんが道路の拡張・変更のため、一か所に集められることとなった。しかも各地蔵風化がひどくなったので、桝田氏によって木造の地蔵が建立された。
お祭りは現在行われていない。

名称　宮越弘法大師（みやごえこうぼうだいし）（D-2）

所在地　高鍋町大字北高鍋　宮越
建立者　不明
管理者　宮越地区有志
素材　石材
建立年月日　不明
碑文　なし
法量　石像（右）　台座
高さ　三五cm　八cm
幅　三〇cm　三四cm
奥行き　一八cm　五〇cm
石像（左）
高さ　三二cm
幅　二五cm
奥行き　一七cm
台座
高さ　八cm
幅　三四cm
奥行き　五〇cm

由来等　不明

名称　東河原弘法大師（ひがしかわはらこうぼうだいし）（D-3）

所在地　高鍋町大字北高鍋　宮越　河原東

建立者　宮越上地区

管理者　宮越上地区の有志

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　石像　高さ　三六cm　幅　二五cm　奥行き　二二cm

台座　高さ　八cm　幅　三五cm　奥行き　二二cm

由来等　いつの時代の建立かは、はっきりしないが、相当古くから祀られてきている由。

この地蔵さんはよく結婚式に出向かれたと伝えられている。

現在旧の三月二十一日大師まつりの祈りに地区有志のかたによって祭が行いお接待も続いている。興梠スズさんによって欠かさず花・茶が供えられている。

名称　河原弘法大師（かわはらこうぼうだいし）（D-4）

所在地　高鍋町大字北高鍋　宮越

建立者　矢野徳治氏　矢野東見氏

管理者

素材　石材

建立年月日　昭和十八年（一九四三）三月二十一日

碑文　像の側面に建立年月日

法量　石像　高さ　三五cm　幅　二五cm　奥行き　一七cm

台座　高さ　六cm　幅　二二cm　奥行き　一七cm

由来等　不明

名称　宮越不動地蔵（みやごえふどうじぞう）（D-5）

所在地　高鍋町大字北高鍋　宮越　信金通

建立者　不明

管理者　宮越地区の有志

素材　石材

建立年月日　昭和五十年（一九七五）十月吉日

碑文　なし

法量　石像　高さ　九七cm　幅　三三cm　奥行き　二二cm

台座　高さ　一三cm　幅　二七cm　奥行き　二七cm

由来等　宮越大通り開通に伴い、現在地に移転鎮座される。

名称　岩岡地蔵（D-6）

所在地　高鍋町大字北高鍋　道具小路

建立者　岩岡保吉氏

管理者　岩岡氏

素材　石像

建立年月日　戦後

碑文　なし

法量　石像（左）　石像（中）　石像（右）

高さ	七二cm	七二cm	七二cm
幅	四八cm	四六cm	五二cm
奥行き	二二cm	三〇cm	一八cm

由来等

第二次大戦後地区の繁栄、産業の向上、地区民の健康安全を願って建てられた。

名称　上古町弘法大師（D-7）

所在地　高鍋町大字北高鍋　道具小路西　猪崎宅

建立者　道具小路上古町

管理者　猪崎氏

素材　石材

建立年月日　昭和八年（一九三三）旧三月二十一日

碑文　なし

法量　大師像　台座（方）

高さ	六五cm	四九・五cm
幅	三三cm	
奥行き	二六cm	

石像（中）　台座

高さ	三九cm	二〇cm
幅	三一cm	三一cm
奥行き	一八cm	二二cm

舟形石　台座（方）

高さ	二九cm	三三cm
幅	一三・五cm	
奥行き	一〇・五cm	

由来等

上古町に昔からあった地蔵が古くなったので、昭和に入り地区民相計り再建したという。現在猪崎氏が花を供え、年一回四月に近くの二、三戸の人々とお祭りを行っている。同じ堂内に岩岡師作の大師像と舟形石の小石像あり。

名　称　田ノ上巡礼堂地蔵（D-8）

所在地　高鍋町大字北高鍋　道具小路西　巡礼堂

建立者　田住・田ノ上地区

管理者　熊岡氏

素　材　石材

建立年月日　昭和十四年（一九三九）

碑　文　台座背面に

昭和十四年　田住・田ノ上

法　量　石像

高さ　三一cm

幅　二九cm

奥行き　二九cm

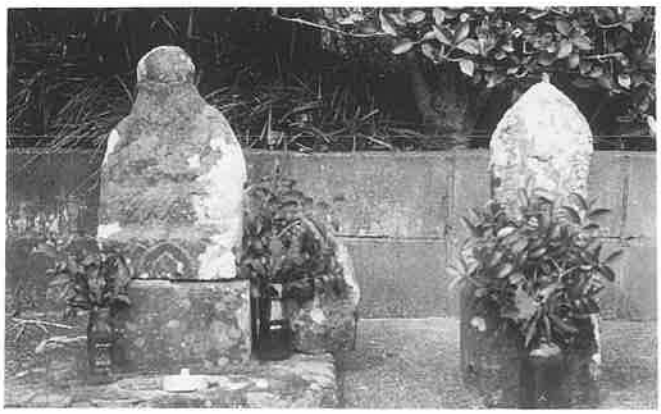
台座

高さ　二六cm

幅　二九cm

奥行き　二九cm

由来等　不明



名　称　田ノ上巡礼堂弘法大師（D-9）

所在地　高鍋町大字北高鍋　道具小路西　巡礼堂

建立者　不明

管理者　地区有志

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　石像

高さ　三三cm

幅　三〇cm

奥行き　三〇cm

台座

一四cm

三〇cm

三二cm

由来等　何時からどうして此に地蔵が安置され祀られているか、古老に聞いても不明、随分前からあるのは確かなようである。近隣の方々により旧三月二十一日にお祭りを行う。以前は接待もしていたが平成になってからはこの行事もない。

この地蔵は、よく結婚式にかり出され縁結びに一役かっていた由。

名　称　熊野社地蔵（くまのしゃじぞう）（D-10①）

所在地　高鍋町大字北高鍋 道具小路 熊野神社境内

建立者　不明

管理者　不明

素　材　石碑

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　石像①

高さ　三六cm

幅　二〇cm

奥行き　一〇cm

石像②

高さ　三六cm

幅　二一cm

奥行き　一四cm

由来等　公民館建替えのおり地中から出て来たので、現在地に安置した。

（岩野氏談）

名　称　岩岡地蔵（いわおかじぞう）（D-10②）

所在地　高鍋町大字北高鍋 道具小路 熊野神社境内

建立者　橋　保・久場光男・都原純一・岩崎伸一・大山昌昭・谷川喜八郎・岩野武文　の各氏

管理者　同じ

素　材　石像

建立年月日　昭和十九年（一九四四）一月吉日

碑　文　なし

法　量　石像

高さ　八八cm

幅　四三cm

奥行き　二七．五cm

由来等　建立者の厄年の厄払いに奉納

岩岡保吉氏作

名称　円智寺地蔵（えんちじぞう）（D-11）

所在地　高鍋町大字北高鍋　道具小路東　円智寺
建立者　円智寺
管理者　円智寺
素材　石材
建立年月日　不明
碑文　なし
法量　石像①　高さ　五五cm　幅　三三cm　奥行き　二二cm　台座　一四cm　三三cm　二二cm
石像②　高さ　五五cm　幅　三三cm　奥行き　一九cm　台座　一四cm　三三cm　一九cm
石像③　高さ　五三cm　幅　一七cm　奥行き　一五cm　台座（六角）　高さ　九cm　幅　一六cm　奥行き　二九cm
石像④　高さ　三九cm　幅　二七cm　奥行き　二一cm　台座　なし

石像⑤　高さ　三七cm　幅　二八cm　奥行き　二〇cm　台座（円座）　五cm　三〇cm
石像⑥　高さ　七六cm　幅　三〇cm　奥行き　一六・五cm　台座　一一cm　三三cm　三一cm
石像⑦　高さ　七四cm　幅　二九cm　奥行き　二七cm　台座　六三cm　五二cm　四一cm

由来等　不明

名称　中間小路弘法大師（D-12）

所在地　高鍋町大字北高鍋　中間小路　山上家宅地

建立者　不明

管理者　不明

素材　石像

建立年月日　不明

形状　屋根付き

碑文　像の裏面に中間小路とある

法量　石像　高さ　三五cm　幅　三三cm　奥行き　二六cm

台座　三〇cm　五二cm　五二cm

由来等　どのようにして建設されたかは不明だが、毎年旧三月二十一日のお大師さんの日（四月八日）、甘茶祭りがお堂近くの人々によって受け継がれている。

名称　菖蒲池観音（D-13）

所在地　高鍋町大字北高鍋　菖蒲池西

建立者　不明

管理者　岩村・黒木・児玉の三氏

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　堂外左側①石像　高さ　六五cm　幅　二八cm　奥行き　一五cm

台座　一三二cm　三三cm　二二cm

堂内②石像　高さ　三七cm　幅　二九cm　奥行き　二一cm

台座　一七八cm　三二cm　二二cm

堂外右内③石像　高さ　三六cm　幅　三一cm　奥行き　二一cm

台座　一三一cm　三三一cm　二二一cm

堂外右外④石像　高さ　二九cm　幅　二一・五cm　奥行き　一七cm

台座　二二一cm　二六cm　二六cm

由来等　建立がいつかは不明だが、この地が昔の主要道であったので地区や行き交う人の安全を祈願して建立されたと伝えられる。毎月十八日近隣の岩村シマ・黒木貞子・上江の児玉氏相寄りお経をあげお祭りを行う。昭和年代までは高齢者多数によってお祭りが行われていたが現在は三名となっている。

名　称　萩原地蔵（D-14）

所在地　高鍋町大字北高鍋　萩原公民館

建立者　不明

管理者　萩原公民館

素　材　石材

建立年月日　不明

法　量　堂内前列左①石像（首なし）台座
高さ　四一cm　七cm
幅　一八cm　二一cm
奥行き　一三cm　二一cm
堂内前列右石像②
高さ　四九cm
幅　一八cm
奥行き　一八cm
堂内後列左石像③　台座
高さ　二六cm　三二cm
幅　一八cm　二一cm
奥行き　一八cm　一八cm

由来等　不明

名　称　中鶴火伏地蔵（D-15）

所在地　高鍋町大字北高鍋　中鶴大峰三叉路

建立者　中鶴大峰地区有志

管理者　中鶴大峰地区

素　材　石材　コンクリートブロックの堂内に板碑型連碑①と石像一体②

建立年月日　不明

法　量　堂内石像①（二体）　台座
高さ　二四cm　一六cm
幅　二二cm　三二cm
奥行き　一三cm　二七cm
堂内石像②
高さ　二一cm
幅　一五cm
奥行き　二四cm
台座
なし

由来等　中鶴大峰地区で大火がありその後、宇納間（北郷村）地蔵におまいりした時に宇納間から石を持ち帰り地蔵を彫り祀った。横に庚申塔あり。

名称　毛比呂計弘法大師（もひろげこうぼうだいし）（D-16）

所在地　高鍋町大字北高鍋　毛比呂計

建立者　不明

管理者　不明

素材　石材　コンクリートブロックの堂内

建立年月日　不明

法量　堂内石像　台座

高さ　四〇cm　一六cm

幅　二五cm　三一cm

奥行き　一二cm　二六cm

由来等　不明

名称　樋渡弘法大師（ひわたしこうぼうだいし）（D-17）

所在地　高鍋町大字北高鍋　樋渡　稲荷神社境内

建立者　不明

管理者　樋渡地区有志

素材　石材　木造の堂内

建立年月日　不明

法量　堂内石像　台座

高さ　五七cm　一五cm

幅　五二cm　五二cm

奥行き　二八cm　二九cm

由来等　樋渡地区が中鶴より分村したとき、岐路にあった地蔵を現在の稲荷大明神の境内入口に移転、稲荷祭りのとき神官に頼み祀っている。別個に祭りはしていない。

名　称　**港町入口地蔵**（E-1）

所在地　高鍋町大字蚊口浦港入り口

建立者　岩切イス氏（宮崎市在住）

管理者　地区有志で管理

素　材　石　材　コンクリートの基礎の上に二段台座

建立年月日　地蔵　昭和四年（一九二九）頃
台座　上　明和六年（一七六九）
下　昭和四年五月吉日

碑　文　台座上正面　六区丑　法　界
側面　明和六年
台座下背面　新名栄太郎　昭和四年（一九二九）
五月吉日　港町講中

法　量　地　蔵　　台座上　　台座下
高さ　二六cm　　二三cm　　二三cm
幅　一五cm　　二一cm　　三六cm
奥行き　一五cm　　二〇cm　　三一cm

由来等　像・台座の年代がそれぞれ違っている。戦災によってばらばらになったものを集めて建てられたものと思われる。
地蔵そのものは岩切イス氏（宮崎市在住）の建立という。

名　称　**鵜戸西地蔵**（E-2）

所在地　高鍋町大字蚊口浦プール下

建立者　不　明

管理者　地区有志で管理

素　材　石　材

建立年月日　不　明

碑　文　な　し

法　量　地蔵（首なし・台座別）　六地蔵（台座なし）
高さ　三四cm　　三三cm
幅　二〇cm　　二〇cm
奥行き　二〇cm　　三六cm

由来等　太平洋戦争時空爆によって散乱していたものを戦後復興事業の時点で集めて建てられたものと思われる。
横に六地蔵塔の一部もある。

名　称　蚊口弘法大師（E-3）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　岩切八郎方

建立者　不明

管理者　不明

素　材　石材

建立年月日　不明

法　量　地蔵左（台座別）　右

高さ　三七cm　五四cm

幅　二六cm　一八cm

奥行き　二二cm　一三．五cm

由来等　当家は藩主船遊びの時の寄せ場であったと伝えられている。

名　称　上半田地蔵（E-4）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　青木守氏宅

建立者　不明

管理者　青木守氏

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　地蔵右　台座

高さ　五七cm　三一cm

幅　二一cm

奥行き　一九cm　四三cm

地蔵左

高さ　三三cm

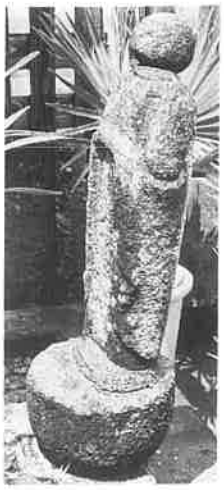
幅　三四cm

奥行き　二〇cm

由来等　側に小石像あり背面に上半田とあり上半田（旧地区名）から現在地に移したという。

名　称　鯨橋東地蔵（E－5）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　長友幸祐氏宅
建立者　不明
管理者　長友幸祐氏
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　なし



法　量　地蔵
高さ　六〇cm
幅　二二cm
奥行き　二〇cm
台座
高さ　三五cm
幅　三七cm
奥行き　三三cm

由　来　等　蚊口郵便局西側角から移転したという。

名　称　下半田地蔵（E－6）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　下半田　井上光高氏宅
建立者　不明
管理者　井上光高氏
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　なし

法　量　地蔵（首なし）
高さ　五〇cm
幅　二二cm
奥行き　一四cm
台座
高さ　一七cm
幅　三〇cm
奥行き　三〇cm

由　来　等　二体あり一体は頭部分が欠損。もう一体は胴より上部分が失われているが手厚く祀られている。

名　称　下町地蔵（E－7）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　都原良弘氏宅
建立者　不明
管理者　都原良弘氏
素　材　石材
建立年月日　不明
碑　文　なし

法　量　地蔵①（左小）
高さ　二六cm
幅　一九cm
奥行き　一三cm
台座
二一cm
一九cm
一三cm
地蔵②右（堂内）
高さ　七五cm
幅　五八cm
奥行き　三九cm

由　来　等　屋敷の角地にあり①は頭部は自然石、②は花崗岩の石材で作られた室の壁に浮き彫りの仏像らしい（風化が激しく判明しない）が画かれている。他に同質のものがないので貴重な研究材と思われる。

名称　鵜戸橋西地蔵（うどばしにしじぞう）（E-8）

所在地　高鍋町大字蚊口浦蚊口　鵜戸橋西詰

建立者　不明

管理者　不明

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　地蔵　台座　蓮華　台座

高さ　五二cm　一八cm　一〇cm

幅　一六cm　一六cm　二八cm

奥行き　一六cm　一六cm　三〇cm

由来等　以前は南向きに立っていた。竹藪の中に見捨てられていたのを近くの高橋さんの父親が現在のように東向きに建て変えられた。

名称　鯨橋西地蔵（くじらばしにしじぞう）（E-9）

所在地　高鍋町大字蚊口浦蚊口　日田良子氏宅角

建立者　不明

管理者　地区有志

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　地蔵①中　台座

高さ　六九cm　四〇cm

幅　二一cm　二四cm

奥行き　一四cm　二〇cm

地蔵②左　台座

高さ　四四cm　一〇cm

幅　二八cm　二七cm

奥行き　二一cm　二五cm

地蔵③右

高さ　四〇cm

幅　二〇cm

奥行き　一三cm

台座

高さ　一〇cm

幅　二四cm

奥行き　二〇cm

由来等　不明

名　称　天神弘法大師（E-10）

所在地　高鍋町大字蚊口浦蚊口　菅原神社境内

建立者　不明

管理者　岩切房義氏ほか

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　なし

法　量　大師像左　台座　蓮台

高さ　二七cm　一五cm

幅　二四cm　二二cm

奥行き　一二cm

大師像中　大師像右

高さ　五〇cm　三七cm

幅　三二cm　二八cm

奥行き　二一cm　二二cm

由来等　昭和六十一年六月十五日天神橋東詰の藪の中にあるのを見つけ、引き上げて菅原神社境内にまつり、左の五戸の夫婦で四月のお大師さんの日に神官を招いて祀っている。

岩切房義
本部真一
池谷正幸
中神幸年
横山ノブ子

名　称　天神町地蔵・弘法大師（E-11）

所在地　高鍋町大字蚊口浦蚊口下　天神町

建立者　不明

管理者　池谷雅之氏

素　材　石材

建立年月日　不明

碑　文　②の弘法大師像の基台に三十三番と横書きの下段に五字三行の文（読み取れない）

明治四十二年（一九〇九）十一月

とある

法　量　①地蔵　台座

高さ　六七cm　一六cm

幅　二四cm

奥行き　一九cm

②弘法大師像

高さ　三三cm

幅　二六cm

奥行き　一七cm

由来等　不明

名称　蚊口下地蔵（E-12）

所在地　高鍋町大字蚊口浦下蚊口　生駒誠氏宅

建立者　不明

管理者　生駒誠氏

素材　石材

建立年月日　不明

碑文　なし

法量　地蔵　台座

高さ　三六cm　二四cm

幅　二八cm　二八cm

奥行き　二五cm　二七cm

由来等　親が祀っていたのを引き継いで祀っている。

名称　浜墓地六地蔵（E-13）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　墓地南入り口

建立者　不明

管理者　不明

素材　石像

建立年月日　不明

形状　灯籠形六面幢

六地蔵と思われるが六地蔵部分のみが二体同所に舟形石に浮彫の地蔵と梵字石がある。

碑文　梵字

法量　地蔵①　六地蔵

高さ　七五cm　三〇cm

幅　三〇cm　一辺　二一cm

奥行き　一四cm

由来等　不明

名称　鵜戸社入口地蔵（E-4）

所在地　高鍋町大字蚊口浦　鵜戸神社入り口

建立者　不明

管理者　不明

素材　石像

建立年月日　不明

形状　地蔵は首なし、もう一体は舟形石に浮き彫り

碑文　なし

法量　地蔵①（台座別）　②（台座別）

高さ　三五cm　四二cm

幅　二二cm　二一cm

奥行き　一六cm　一四cm

由来等　以前は鵜戸神社で祀っていたが最近は行われていないので現在すぐ横の久保田さんが清掃・献花されている。

四、編集後記

高鍋町文化財シリーズ第九集として「高鍋の野仏」と題して、委員五名で調査しまとめあげることができました。

高鍋の狭い範囲に「地蔵さん」と呼ばれる石像などがよく在ったものだと感心させられました。それ程、高鍋の先祖は信仰心が厚かったのだと存じます。

「地蔵さん」と一口に言っても、各地に在すのは、石像・木像あり、また形状も異なり、その数量と特徴に驚きました。大正から昭和の戦後にかけて、岩岡氏の手になる石像が各所に見られるのも他市町村にない特徴と言えましょう。

調査しているうちに石像などに風化が進んでいるのがありました。地区によっては、小屋を作って「地蔵さん」を覆うなど対策をされていて有難く思います。

最後に、この調査に当りご協力いただいた地区の方々、そして発行いただいた、町・町教委に衷心よりお礼を申し上げます。

平成十七年二月

高鍋町文化財保存調査委員会

五、調査執筆者及び参画者

高鍋町文化財保存調査委員長	岩村哲雄
同　調査副委員長	高橋照久
同　調査委員	石井正敏
同　同	岩村進
同　同	夛賀進司
高鍋町社会教育課長	壱岐昌敏
同　課長補佐	三嶋俊宏
同　文化財係長	山本格
同　文化財係主査	小澤宏之